



平成24年度(第67回)文化庁芸術祭主催公演

新国立劇場開場15周年 2012/2013 シーズン演劇公演
[JAPAN MEETS... -現代劇の系譜をひもとく-] VII

るつぼ

作◎アーサー・ミラー 翻訳◎水谷八也
演出◎宮田慶子

2012年10月29日(月)~11月18日(日)
新国立劇場 小劇場

トニー賞受賞のアーサー・ミラー作品、新国立劇場初登場！

好評を博してきたシリーズ [JAPAN MEETS... -現代劇の系譜をひもとく-] も、いよいよ第7作目。新国立劇場初登場となるアーサー・ミラーの問題作『るつぼ』を上演します。

17世紀末にアメリカのセイラムという町で実際に起きた魔女裁判を題材に、執筆当時の1950年代、社会を席卷していたマッカーシズムに警鐘を鳴らした、トニー賞受賞作品です。男女の愛憎や、群集心理によるパニック状態、土地をめぐる抗争、聖職者や政治家の自己保身、町の人々の相互不信などが、まさに“るつぼ”のように混ざり合った混沌とした状況で、信念を曲げず絞首台に散っていく心の美しい人間たちの生きざまが描かれます。

良心に忠実に生きるがゆえ破滅へと向かう農夫プロクター役に、これが初めての主演舞台となる池内博之。復讐のために彼を翻弄し、町じゅうを魔女狩りの嵐に巻き込んでいく美しい娘アビゲイルを、鈴木杏が演じます。いくつもの重く崇高なテーマを持つ20世紀の傑作戯曲が、いま日本で上演される意義を、芸術監督の宮田慶子自らが世に問う意欲作です。

【9月2日(日)チケット前売り開始 ☞ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当 田中雅司

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当 茂木令子

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709



新国立劇場

<http://www.nntt.jac.go.jp>

◎作品について

宮田慶子が芸術監督就任以来、企画、上演し続けている「JAPAN MEETS… ー現代劇の系譜をひもとくー」シリーズ第7作目として取り上げるのは、アーサー・ミラー作『るつぼ』。

1953年に初演された本作は、17世紀末に実際に起きた米国セイラムの魔女裁判に取材しながら、1950年代当時のアメリカの赤狩りやマッカーシズムを痛烈に批判し、社会現象ともなった問題作です。また、2001年の9.11同時多発テロ以降のアメリカ国内の動きを批判して再演され、本国アメリカでは大きな話題となりました。社会における弱者と強者、群集心理によるパニック状態、そして一人の男がたった一人の少女に翻弄されていく姿を描き、トニー賞も受賞しました。

2009年に、宮田慶子自らが演劇研修所の試演会で取り上げた作品を、11年の『わが町』でタグを組み大きな評価を得た水谷八也が新たに翻訳、さらに深淵まで踏み込んで、再び挑みます。

◎あらすじ

1692年、マサチューセッツ州セイラム。

春。

牧師のパリス(=檀 臣幸)が深夜の森でアビゲイル(=鈴木 杏)ら少女たちが全裸で踊っているのを発見したことを発端に、悪魔払いのヘイル牧師(=浅野雅博)がかけつけるなど町は大騒ぎ。さらにパトナム家と町の老人・ジャイルズとの抗争、アビゲイルと農夫ジョン・プロクター(=池内博之)との不倫関係などが絡み合い、窮地に追い込まれた少女たちは町の人々を魔女として告発し始める。

セイラムでは、これまで人々の篤い信頼を得ていたレベッカ・ナース(=佐々木愛)をはじめ、罪もない人々が次々と逮捕、処刑されていく一方で、アビゲイルらは聖女として扱われている。プロクターは、魔女告発者の一人である下女の言動から、アビゲイルたちの陰謀に気づくが、時すでに遅く、とうとう妻・エリザベス(=栗田桃子)が拘束されてしまう。プロクターらは、ヘイル牧師の協力でダンフォース副総督(=磯部 勉)に妻の赦免を願い出、アビゲイルと対決することに。だが、言い争ううちにアビゲイルは「悪魔がいる」と言いだして人々を扇動、プロクターも拘束されてしまう。

季節は秋から冬へ。

魔女裁判に疑問を感じ始めた人々も現れる中、アビゲイルは身の危険を感じ失踪してしまう。憂慮したパリスとヘイルはダンフォース副総督を説得、裁判の正当性と保身のため、プロクターの処刑を中止する代償として、一旦は「魔女」であることを告白するよう提言する。

悩むプロクターは、家族への愛を断ち切ることができず偽りの告白をするが、仲間を裏切ったという良心の呵責に耐えかね、自ら朝日に輝く処刑台へと上って行く。

◎演出家からのメッセージ

宮田慶子

「るつぼ」の原題「The Crucible」には、多種多様なエネルギーが集まり、濃度が高い状態で混ざり合う“渦”のような「坩堝(るつぼ)」の意味と同時に、「過酷で厳しい試練」という定義があります。1692年に北米のマサチューセッツ州セイラムで実際におこった魔女裁判を題材に書かれたこの戯曲は、まさに、信仰、集団、夫婦、規律、自由、尊厳、そしてそれらにまつわる人間の弱さや愚かさ、虚栄心や執念や嫉妬や裏切りというあらゆる人間ドラマを混在とした「るつぼ」として描いています。

徹底した禁欲主義の戒律を持つピューリタンの事件を扱いながら、登場人物ひとりひとりにまったく別の視点を負わせ、多面的に展開するドラマは、だからこそ普遍的な説得力と魅力を持っていると言えます。ひとつひとつをひもときながら、まるでパズルが組み合うように追い込まれていく状況を作り上げたいと思います。

立場や価値観の多様性の中で生きる私達にとって、それを認めることと、認めることによって生じる矛盾とを、どう整理し決着させていく未来を描けばいいのか…。そんな事を考えながら、演出の思いを巡らせています。

◎翻訳者からのメッセージ

水谷八也

アーサー・ミラーの『るつぼ』(1953)は、1950年代前半のアメリカを席卷したマッカーシズムを描いたものとして知られている。しかし、『るつぼ』は20世紀の政治状況を17世紀末のアメリカで起こった魔女裁判に重ねただけではなく、異なる時代の二つの事象を重ねることで、その熱狂の根底に横たわる人間の本質を明らかにしている。

それは「線を引き」こと。こちらとあちらを分けること。それは、こちらとは異なるあちらを作り出し、自分(たち)とは異質の他者を生み出す行為に他ならない。こちらの正当性を証し、同質のこちら側の結束を堅固なものにして安寧を得るために、「排除」は不可欠となり、やがて単なる区別は差別へと容易に転化していく。まるで己の外側、向こう側に「敵＝悪」という他者を作ることが、唯一説得力を持つ存在証明の方法であるかのように。

『るつぼ』は、17世紀から20世紀半ばを貫き、今世紀にまで連なる己の「在り方」をめぐる戯曲として、今日でも力強く、私たちに問いかけを迫ってくる。そして、己の中の「他者」を強く意識させるのだ。翻訳者として、そんな『るつぼ』観を演出家、役者にぶつけてみたいと思っている。

◎プロフィール

作◎ アーサー・ミラー (Arthur Miller)

アメリカの劇作家・エッセイスト。1915年-2005年。

ミシガン大学在学中にラジオドラマの脚本を皮切りに劇作活動をスタート、44年『幸運な男』でブロードウェイに進出。47年『みんな我が子』がヒットし一躍注目を浴びる。49年『セールスマンの死』でトニー賞、ピューリッツァー賞を受賞。劇作家としての地位を確立し、テネシー・ウィリアムズとともにアメリカ現代演劇の旗手となった。その他、代表作に55年の『橋からのながめ』、68年の『代価』など。

ミラーは、社会と個人の接点からドラマを構築し、社会の矛盾を風刺し、近代化による人間疎外を批判した。映画化された作品も多い。日本でも、作品は数多く繰り返し上演され、大きな共感を呼び起こした。また演劇の他、様々な分野に進出し、映画の脚本や小説、評論も手掛け、65年から69年まで国際ペンクラブの会長を務めた。2004年にシカゴで上演した『フィニッシング・ザ・ピクチャー』が最後の作品となった。

翻訳◎ 水谷八也 (みずたに・はちや)

1953年生まれ。学習院大学大学院人文科学研究科修了。現在、早稲田大学文化構想学部教授。翻訳書にワイルダーの『危機一髪』『結婚仲介人』、アリエル・ドーフマンの『谷間の女たち』『THE OTHER SIDE／線のむこう側』『世界で最も乾いた土地』など。ワイルダー関係の論文に「Our Town—human mindとhuman natureのドラマ」「The Skin of Our Teethにおける中断」「劇作家ソーントン・ワイルダー —形式としてのヴォードヴィル」「The Matchmaker 一生の演劇」「PRETENSE”の弁護 —ソーントン・ワイルダー的一幕劇集」「Thornton Wilder と Nascuntur Poetae...における詩人の肖像」「Thornton Wilder の The Wreck on the Five-Twenty-Five」などがある。

新国立劇場では2010/2011シーズン『わが町』の翻訳を手掛けている。

演出◎ 宮田慶子 (みやた・けいこ)

1957年生まれ、東京都出身。80年、劇団青年座(文芸部)に入団。83年青年座スタジオ公演『ひといきといき』の作・演出でデビュー。翻訳劇、近代古典、ストレートプレイ、ミュージカル、商業演劇、小劇場と多方面にわたる作品を手がける一方、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流に積極的に取り組んでいる。2010年9月より、新国立劇場演劇芸術監督。新国立劇場演劇研修所講師・サポート委員。社団法人日本劇団協議会常務理事、日本演出者協会副理事長。

主な受賞歴に、94年第29回紀伊国屋演劇賞個人賞(『MOTHER』青年座)、97年第5回読売演劇大賞優秀演出家賞(『フユヒコ』青年座)、98年芸術選奨文部大臣新人賞(新国立劇場公演『ディア・ライアー』)、01年第43回毎日芸術賞千田是也賞、第9回読売演劇大賞最優秀演出家賞(『赤シャツ』『悔しい女』青年座、『サラ』松竹)など。上記以外の主な演出作品に、『ブンナよ、木からおりてこい』『妻と社長と九ちゃん』『千里眼の女』をんな善哉(青年座)、『愛は謎の変奏曲』『恋の三重奏』『紫式部ものがたり』『ガブリエル・シャネル』(松竹)、『ノイズオブ』『エレファントマン』『ペテン師と詐欺師』(ホリプロ)、『ふたたびの恋』『LOVE30』『Triangle Vol.1, Vol.2』(パルコ)、『伝説の女優』『ウェディング・ママ』(アトリエ・ダンカン)など。

新国立劇場では上記『ディア・ライアー』のほか、『かくて新年は』『美女で野獣』『屋上庭園』を、芸術監督就任以降は『ヘッダ・ガーブレル』『わが町』『おどくみ』『朱雀家の滅亡』『負傷者16人—SIXTEEN WOUNDED—』と、オペラ『沈黙』を演出している。

ジョン・プロクター◇ 池内 博之 (いけうち・ひろゆき)



茨城県出身。1997年、映画『ドリームスタジアム』でデビュー。2006年には映画『13の月』で監督としてもデビューを果たす。また08年には香港映画『葉問』に出演、活躍の場を海外にも広げる。2004年『罫籠城の七人〜アオドクロ』で初舞台。その後は蜷川幸雄、松尾スズキ、野田秀樹、栗山民也ら、日本演劇界を牽引する演出家たちの作品に次々に出演、ドラマ、映画、舞台と多ジャンルで活躍している。

近年の主な出演作品に、ドラマ『下町ロケット』『未解決事件〜グリコ・森永事件』『最上の名医』、映画『SPACE BATTLESHIP ヤマト』『桜田門外の変』『ばかもの』、舞台『アントニーとクレオパトラ』『欲望という名の電車』『ザ・キャラクター』『イリアス』など。2013年は日中合作映画『スイートハートチョコレート』、映画『奇跡のリンゴ』の公開を控え、NHK 大河ドラマ『八重の桜』への出演が決定している。

新国立劇場には初の出演となる。

アビゲイル◇ 鈴木 杏 (すずき・あん)



東京都出身。1996年、ドラマ『金田一少年の事件簿』でデビュー。2003年、映画『Returner』で第26回日本アカデミー賞新人俳優賞と話題賞をW受賞。同年『奇跡の人』ヘレン・ケラー役で初舞台を踏むと、蜷川幸雄、いのうえひでのり、鈴木裕美、長塚圭史ら、実力派の演出家たちと組み次々の話題の舞台に出演。ドラマ、映画、舞台のほかナレーションなどにも定評があり、ジャンルを超えて活躍の場を広げている。

近年の主な出演作品に、ドラマ『聖なる怪物たち』『レッスンズ』『負けて、勝つー戦後を作った男・吉田茂一』、映画『ヘルター・スケルター』『軽蔑』『ヒミズ』、舞台『新・幕末純情伝』『トップ・ガールズ』『ムサシ』など。

新国立劇場には初の出演となる。

◎マンスリー・プロジェクトについて

一人でも多くの方に気軽に劇場に足を運んでもらいたいと、“開かれた劇場”を目指す芸術監督の宮田慶子。その一環として、2010/2011 シーズンより「マンスリー・プロジェクト」が始動しました。リーディングあり、講座あり、トークショーありの、多彩な無料プログラムを用意し、その月々に関連した演劇公演に多角的にアプローチしています。

『るつぼ』の公演が行われる11月は、今回の新訳を手掛けた水谷八也、劇作家の黒川陽子による演劇講座を開講。アーサー・ミラーの作品を21世紀からとらえ直すと何が見えてくるのか、検証していきます。

演劇講座 「ミラー・アメリカ・20世紀、そして21世紀」

講師： 水谷八也(翻訳家・早稲田大学教授)、黒川陽子(劇作家)

日時： 2012年11月10日(土)18:00

会場： 新国立劇場 小劇場

2012年10月9日(火)～29日(月)の応募期間内に、新国立劇場ホームページの所定のフォーマットもしくは往復ハガキでのお申し込みが必要です。詳しくは、新国立劇場ホームページ(<http://www.nntt.jac.go.jp/play/mp>)か、情報センター(03-5351-3011(代))でご確認ください。

マンスリー・プロジェクトでは、一般のお客様にご参加いただくワークショップも開催しています。9月は芸術監督の宮田慶子が講師を務める「リーディングをやる?」。見たり聞いたりするだけではない、“考えたり、声を出したり、演じたり”する演劇への参加の仕方をご提案しています。(申込受付は終了)

ワークショップ 「リーディングをやる?」

講師： 宮田慶子(新国立劇場演劇芸術監督 演出家)

日時： 2012年9月8日(土)、9日(日) 各13:00～18:00

会場： 新国立劇場 地下2階 オーケストラリハーサル室

◎公演概要

【タイトル】 JAPAN MEETS… —現代劇の系譜をひもとく— VII

「るつぼ」

【スタッフ】 作 アーサー・ミラー
 翻訳 水谷八也
 演出 宮田慶子
 美術 長田佳代子
 照明 中川隆一
 音響 長野朋美
 衣裳 加納豊美
 ヘアメイク 川端富生
 歌唱指導 伊藤和美
 演出助手 渡邊千穂
 舞台監督 堀 吉行
 芸術監督 宮田慶子
 主催 文化庁芸術祭執行委員会／新国立劇場

【キャスト】 池内博之 鈴木 杏
 田中利花 関 時男 木村靖司 檀 臣幸 浅野雅博
 松熊つる松 栗田桃子 佐川和正 亀田佳明 深谷美歩
 武田 桂 日沼さくら チョウ・ヨンホ 梨里杏 奥泉まきは
 磯部 勉 戸井田 稔 佐々木 愛

【会場】 新国立劇場 小劇場（京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結）

【公演日程】 2012年10月29日(月)～11月18日(日)

2012年	10/29	30	31	11/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	月	火	水	木	金	祝	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00			◎	●		◎	●	休演	★	●	●		●	◎	休演	●	●			◎	●
18:30	●	●			●							●						◎	●	◎	

◎＝託児室あり(要予約) / ★＝終演後、シアタートーク / 11/10(土)18:00＝マンスリー・プロジェクト

【前売開始】 2012年9月2日(日)10:00～

【料金】 A席 5,250円 B席 3,150円
 (三作品特別割引通し券〈それぞれの魅力—秋から冬へ—〉を発売。『るつぼ』『音のない世界で』A席、『リチャード三世』S席がセットで16,600円(正価18,900円のところ))

チケット申し込み・問い合わせ

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

その他チケット取り扱い

チケットぴあ、イープラス、ローソンチケット、CNプレイガイド ほか

* **Z席 1,500円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。

新国立劇場開場15周年 2012/2013 シーズン演劇ラインアップ

2012.10 リチャード三世 作:W.シェイクスピア 翻訳:小田島雄志 演出:鶴山 仁 中劇場

JAPAN MEETS... -現代劇の系譜をひもとく- VII

2012.10-11 るつぼ 作:A.ミラー 翻訳:水谷八也 演出:宮田慶子 小劇場

2012.12-13.1 音のいない世界で 作・演出:長塚圭史 振付:近藤良平 小劇場

2013.3 長い墓標の列 作:福田善之 演出:宮田慶子 小劇場

With -つながる演劇-

2013.4 [ウェールズ編] The Brown Paper Man (仮題) 小劇場
作:A.ハリス 翻訳:長島 確 演出:J.E.マグラウ

2013.5 [韓国編] アジア温泉 (仮題) 中劇場
作:鄭 義信 演出:孫 振策

2013.6 [ドイツ編] THE EARTH, THE AIR AND THE SEA (仮題) 小劇場
作:R.シンメルプフェニヒ 翻訳:大塚 直 演出:宮田慶子

2013.7 象 作:別役 実 演出:深津篤史 小劇場